

2019年12月21日 山里小学校学童保育「やまざとキッズクラブ」

冬休み目の土曜日、長崎市立山里小学校学童保育「やまざとキッズクラブ」の元気な子ども達と一緒に勉強しました。1～6年生までの子ども達とお母さん、小さいきょうだいも一緒に参加してくれました。今回のプログラムは、『PTUの味』『特徴ゲーム』『遺伝の木』です。

まず、みんなに色とりどりの丸いカードを1枚選んでもらいました。中心の白い円の中に、名前と似顔絵を描いてもらいます。何に使うかは後のお楽しみです。開始までの時間を使って、個性あふれる絵を描いてくれました。

『PTUの味』では、薬液をしみこませたろ紙をなめます。お部屋の真ん中で「苦い味がわかる人」と「苦い味がしない人」に分かれて、それぞれのチームを観察しました。味がしない人よりも苦い味がわかる人が多かったです。どちらのチームにも子どもも大人もいました。男の子は3人とも「苦い味がわかる」チームでしたが、男の子の参加がもっと多かったら、どちらのチームにもいたかもしれませんね。



この味の違いは遺伝の特徴の一つです。このような違いを一つ一つ確認しました。

次に自分の特徴をよく観察して、丸い特徴シールを丸いカードに張り付けていきます。“一重まぶた”“か”二重まぶた“か”、“親指が大きく反るか”“など、その他の遺伝の特徴をみていきました。特徴があるから良いとか、ないから悪いとか、そういうことは全くありません。あってもなくてもどちらでもよいのです。このようにシールを貼っていくと…自分のお花「特徴カード」の出来上がりです。このお花のカードを使って『特徴ゲーム』をしました。みんなの中から1人に前に出てきてもらって、特徴を順番に発表していきます。同じ特徴が発表されたら立ったまま、違うと座ります。一度座ったら、ゲームが終わるまで、見守ります。今回は最初の代表が男の子だったので、たった2つの特徴で同じ特徴を持った人がいなくなりました。次の代表の女の子は7個、その次のお母さん代表は8個の特徴で同じ特徴を持った人は誰もいなくなりました。これで、同じ特徴を持った人は誰もいないことがわかりました(唯一性)。



最後にみんなのお花を『遺伝の木』に貼りました。

遺伝の木は、特徴の有無で枝分かれしていて、自分の花をどの枝に咲かせるかを決めます。みんながいろんな特徴を持っているから、遺伝の木のすべての枝にお花を咲かせることができました(多様性)。

今回は、同じ学童で一緒に過ごす仲間と一緒に、「みんな違っていいこと」、「いろんな人がいるから楽しく過ごせること」、「たった一人の大切な自分」について勉強しました。コンパクトなスペースと時間でしたが、みんなが楽しく、私たちが伝えたいことを一緒に勉強できたと思います。高学年と保護者の皆さんのサポートにとっても感謝しています。楽しい時間をありがとうございました。